

東京都病院協会 会報

東京都病院協会
LTD制度・医療共済制度
引受保険会社



東京海上日動

2026年(令和8年)1月23日

第345号

毎月1回 定価200円(会員購読料は会費に含む)

発行所:一般社団法人東京都病院協会/発行人:猪口正孝 〒101-0062 千代田区神田駿河台2-5 東京都医師会館404号室
TEL:03-5217-0896 / FAX:03-5217-0898 / URL:<https://tha.or.jp> / E-mail:thaoffice@tha.or.jp



猪口 正孝

年頭所感

地域の実情に沿つた 提供体制の整備へ尽力

一般社団法人東京都病院協会 会長
猪口 正孝

した。

国の政策では、2025年度補正予算で「医療・介護等支援パッケージ」が設けられ、1床19・5万円の交付をはじめとする緊急支援策が設けられました。さらに年末に大臣折衝で決定した2026年度診療報酬改定の改定率は本体部分で3・09%のプラス改定となりました。30年ぶりのアップ幅ではありますが、病院の窮状が完全に解決するとは思えません。それでも東京都の独自支援策も視野に入ると、キャッシュフロー改善の兆しが見えてきました。

新年明けましておめでとうございます。謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。昨年2025年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の収束後は、医療提供体制の再構築や物価高騰への対応、深刻な経営環境の改善など、我々を取り巻く課題は山積していますが、東京都の病院にとって、まさに経営困窮の一年であつたと総括できます。そのような中で、東京都病院協会としての活動の意義を改めて実感することができました。

まず、東京都が実施した「地域医療確保緊急支援事業」について、改めて感謝の意を東京都に示したいと思いま。この事業は、総額321億円という大規模な財政支援であり、全国的にも厳しい経営環境に置かれている東京都の病院にとって光明を得た思いがしました。特に、200床以下の中小病院にとって、この支援は切実なものでした。

こうした実態の把握に東京都が積極的な姿勢を示していただいたことは、非常に心強く、今後も東京都医師会をあわせ、3者の協力体制を強化していく考えです。

地域医療構想については現在、2027年度から始まる「新たな地域医療構想」に向け、厚生労働省の「地域医療構想及び医療計画等に関する検討会」もしくは議論が大詰めを迎えていきます。年末ではありますが、病院の窮状が完全に解決するとは思えません。それでも東京都の独自支援策も視野に入ると、キャッシュフロー改善の兆しが見えてきました。

この過程で、東京都が国に対して、都道府県としては異例の「プラス10%」の要望を申し入れていただきたいことを述べておきたいと思います。さらに申し入れに当たり、東京都は「地域医療に関する調査(経営状況に関する調査)」を実施しました。これは都内の病院経営に対する物価高騰や入院患者数減少の影響等の把握経営状況を詳細に把握するため、東京都病院協会と東京都医師会が協力して実施したものであります。都内の全病院を対象に、収支状況、人件費率、設備投資の状況などを尋ねるもので、病院側も有効回答数503件(回答率81%)と、協力的な姿勢を示していただいたことも強調しておきたいと思います。

この調査の結果、都内病院の平均業利益率はマイナス5・8%、平均経常利益率はマイナス3・2%と、極めて厳しい実態が明らかになりました。経常赤字の病院の割合は41・3%から57・3%へ拡大していることも分かりました。

こうした実態の把握に東京都が積極的な姿勢を示していただいたことは、非常に心強く、今後も東京都医師会をあわせ、3者の協力体制を強化していく考えです。

地域医療構想についてもお伝えしたように、1985年から続いてきた体制の見直しも進む見込みです。既に検討会では、地域医療構想についての「会長談話」でもお伝えしたように、地域医療構想及び医療計画等に関する検討会で議論が大詰めを迎えていきます。年末ではありますが、病院の窮状が完全に解決するとは思えません。それでも東京都の独自支援策も視野に入ると、キャッシュフロー改善の兆しが見えてきました。

この過程で、東京都が国に対して、都道府県としては異例の「プラス10%」の要望を申し入れていただきたいことを述べておきたいと思います。さらに申し入れに当たり、東京都は「地域医療に関する調査(経営状況に関する調査)」を実施しました。これは都内の病院経営に対する物価高騰や入院患者数減少の影響等の把握経営状況を詳細に把握するため、東京都病院協会と東京都医師会が協力して実施したものであります。都内の全病院を対象に、収支状況、人件費率、設備投資の状況などを尋ねるもので、病院側も有効回答数503件(回答率81%)と、協力的な姿勢を示していただいたことも強調しておきたいと思います。

これによつて、現行の地域医療構想のもとで算出されている必要病床数の考え方も改められる可能性が出てきまします。現行の構想下では、2025年4月現在東京都全体で必要病床数を算出すると既存病床のほうが721床ほど多いにもかかわらず、13の二次医療圏に分けて計算すると、逆に8740床不足という矛盾が生じています。二次医療圏をそのまま当てはめた構想区域で東京都の医療にとって、新たな飛躍の年となりますよう、心よりお祈り申しあげます。

結びに、今年が皆様にとって、そして東京都の医療にとって、新たな飛躍の年となりますよう、心よりお祈り申しあげます。



り、結果に応じて疾患の発症予防も視野に入れた予防医学的介入についても実行を開始しています。登録医の先生方や近隣の病院との関係は競争ではなく協力であることを念頭に地域全体の医療体制の充実に寄与する病院として機能したいと考えております。引き続きどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



葛西中央病院
理事長
土谷 明男

● 土谷 明男

新年明けましておめでとうございます。
最近、社会保障はあるかも悪者のように語られています。「社会保障費はずつと増え続け、国の財政を圧迫している」「社会保障に係る税や保険料が高すぎる、減らすべきだ」と議論されています。はたして社会保障は悪者でしょうか。

私たちも資本主義という経済制度の中で暮らしています。その資本主義には宿命があります。それは搾取です。中でみてください。むき出しの資本主義を放つておくと経済的な格差が広がります。



内藤病院
理事長
内藤 誠一

● 内藤 誠一

今年は診療報酬の改定の年ですが、私たちの働く環境が改善されることは期待できません。今後も厳しいかもしれません。そんなことは決してありません。今年は診療報酬改定でわざかであります。皆さんと一緒に新年も頑張っていきたいと思います。

2025年からは団塊の世代全てが75歳以上となる今まで経験したことのない超高齢化社会に突入しています。医療も以前のような「治して社会復帰させる医療」から「生活に復帰させる医療」が求められてきています。そのためには生活に近い地域の中小病院が元気でなくてはいけません。さらにはその役割を果たすには多職種連携が重要です。医師、看護師をはじめとしたすべての職種がそれぞれの視線で見えた情報を共有することにより、患者さんに対しても良い医療、看護が提供できると思います。また現在の超高齢

ます。ギスギスした世の中になり、治安が悪くなります。暮らしにくい世の中になるでしょう。だから社会保障という仕組みが生まれました。つまり社会保障は資本主義経済とセットなのであります。日本をはじめ先進国と言われた国々は経済の発展とともに、競い合うように社会保障制度を充実させてきました

ます。皆さんにとって昨年はどんな年でしたでしょうか？私は6月いっぱい退任しましたが、渋谷区医師会長の職あり病院運営と医師会運営と両方の立場で目が回るような忙しさの中、病院が無事に1年間過ごせたのは職員のおかげと感謝しています。また7月から当院初の電子カルテがスタートしました。準備も大変でしたがスタートしてからも調整することが多く、私自身も電子カルテは人生で初めてであつたため、システムとしても私は社会保障制度を構成する要素の一つです。果たして社会保障制度は悪ではあります。しかし一方で病院の7割は赤字で青息吐息の中で踏ん張っているのが現実です。昨年は猪口会長を中心として東京都に働きかけを続けた結果、今までにない補助が出ることになりました。また今年の診療報酬改定でわざかですがアップすることが決りました。

今年も頑張っていきましょう。よろしくお願いします。

今年も頑張つていましょ。よう

院では上記方向性でしっかりと医療に取り組んでいきたいと思います。病院に

より方向性は違うかと思いますが、自分の病院が地域から無くなったら困るだろうと自信をもつて言えるようになります。

「地域に必要とされる病院づくり」をして、自分としても職員の協力なしではここまで来ることはできなかつたと思います。そして皆様の病院も日々良い医療を提供すべく努力している職員によって病院は支えられていると思います。

今年も頑張つていましょ。よう

院では上記方向性でしっかりと医療に取り組んでいきたいと思います。病院に

より方向性は違うかと思いますが、自分の病院が地域から無くなったら困るだろうと自信をもつて言えるようになります。

ほんとうの課題は、
人が少ないとではなく
仕事が多いことでした。

人手をふやすのは、簡単ではありません。
けれどエネルギー設備を最適化すれば、
作業をへらすことはできる。
課題を解決するために、課題から考えつづける。
あなたの悩みも、どうか聞かせてもらえませんか。

TGES

いよいよ開催! 第20回東京都病院学会

2月22日、アルカディア市ヶ谷において第20回東京都病院学会が開催されます。土谷明男学長は、学会テーマを「未来への原点回帰」とし、インフレ転換や診療報酬制度の僵直化により厳しい経営環境にある今こそ、医療の本質に向き合う必要性を訴えています。

プログラムは学会講演・企画と委員会・部会企画で構成されています。基調講演では、河北博文・東京都病院協会名誉会長が「医療文化をデザインする」をテーマに、ベッド数を減らしながら病院機能を維持・拡充した経験から、量ではなく質を追求する医療への転換について講演します。協会長講演では猪口正孝会長が地域医療構想など最近の課題に対する都病協の対応を報告します。学長講演では土谷先生が「医療の

本質」と「病院の理念」について論じ、学会長特別講演では東京科学大学の中島岳志教授が「利他とは何か」をテーマに講演します。

学会長企画のシンポジウムでは「病院の理念の浸透と実践」をテーマに、三軒茶屋病院・関野病院・令和あらかわ病院・南多摩病院から4名が登壇し、各病院の理念とその実践について議論します。

委員会・部会企画では、急性期医療委員会が「2040年に向けた急性期医療体制」を、慢性期医療委員会が「慢性期医療の未来」を取り上げます。また、環境問題検討委員会は持続可能な農林水産業・事務管理部会は病院におけるRPA導入を、看護管理部会は「看護の将来ビジョン2040」をそれぞれテーマとして掲げています。ぜひ、ふるってご参加ください。

第20回東京都病院学会

- 主 題：未来への原点回帰
～「医療の本質」と「病院の理念」について語りましょう!～
- 学長：土谷 明男（東京都病院協会副会長・葛西中央病院理事長）
- 副学長：大坪 由里子（東京都病院協会常任理事・三軒茶屋病院統括院長）
- 学会運営委員長：関野 久邦（東京都病院協会理事・関野病院理事長）
- 開催日：2026年2月22日（日）
- 会 場：アルカディア市ヶ谷（JR市ヶ谷駅徒歩2分）
- 参加費：事前登録参加費：1名様5,000円
(ただし、院長・理事長は15,000円)
当日受付参加費：1名様6,000円
(ただし、院長・理事長は16,000円)
学生：1名様 1,000円（事前登録・当日受付共通）
返金は不可となります。予めご了承ください。
※事前登録参加締め切り：2025年1月30日（金）
- 学会事務局：一般社団法人東京都病院協会
〒101-0062 千代田区神田駿河台2-5
東京都医師会館 404号
TEL: 03-5217-0896
E-mail: tha20@tha.or.jp (学会専用)
- 主催：一般社団法人 東京都病院協会
- 後援：公益社団法人 東京都医師会／東京都
- 協賛：公益社団法人 全日本病院協会 東京都支部
一般社団法人 東京都日本病院会支部

精神科病床は、個別な領域として地域医療構想会議などへの参加はオブザーバーとしての参加に留まっています。が、2027年度の医療計画から同じ土俵で話し合うことになると思います。ただし、やはり精神科病院の偏在があり、二次医療圏で終結できない実情もあるため、精神科は一般科の地域構想会議の下部組織として、精神科医療に関する協議の場が立ち上がり、ここで調整し、一般科との協議になつていくと思われます。都道府県ごとの仕組みになるため、都病協の皆様と次年度以降、いろいろご相談させていただくなることになると思います。病床削減の際の基金の創設なども、一般科同様、精神科にも適応されることになると思います。またご相談させていただきたいと思います。

2つ目は救急病院との連携です。認知症をはじめ、精神科と一般科の連携は、救急医療の面はもちろん、国策で精神障害者の地域移行を推進している現在、地域で暮らす精神障害者の身体疾患への対応は増加していくと思われます。一方で、補助金や診療報酬でも救急受入件数が報酬評価の要になつてているように思います。救急受け入れをしたら精神疾患があり、嫌な思いをしたというお話をほとんどの救命救急医の先生から聞きます。精神科医療に携わるものとして、地域で暮らす精神疾患をもつ患者さんたちが、円滑に身体的医療につながることができるようになりますが、まだまだ運用は地域差があり、十分とは言えません。少

しでも円滑な運用ができるよう努めています。精神科においても、D-PAT (Disaster Psychiatric Assistance Team) があり、全国組織の一部である日本D-PATと東京のローカルD-PATとしての東京D-PATがあります。また、3つの災害拠点精神科病院（松沢病院・井の頭病院・平川病院）があり、これに連携して、精神科災害拠点連携病院が20カ所以上あり、有事の際には被災病院から患者受け入れに協力する体制ができています。まだ各地区医師会との連携もうまくできていない印象をもつておられます。2026年度診療報酬改定は改定率3.09%と、30年ぶりの3%超えであります。そこで、東京都、D-MAT、地区医師会などと顔の見える関係を作り、連携を深めていこうと考えています。

こちらもよろしくお願いします。2026年度診療報酬改定は改定率3.09%と、30年ぶりの3%超えであります。そこで、東京都、D-MAT、地区医師会などと顔の見える関係を作り、連携を深めていこうと考えています。

時代の院長をしてきたのだと今更ながら振り返ります。インフレの中の経営は初めてなので、どのように考えていつたらいいか、右肩上がりの経済でインフレ、ダウンサイズしながらの增收を目指すのは、やはり地域住民が求めめる医療の提供というのが基本だと思います。背骨にしつかり軸を入れた経営をしていこうと思います。どうか、精神科医療を今年も、よろしくお願ひいたします。

都直下型地震の可能性が高まる中、3つ目は災害時のことです。東京直下型地震の可能性が高まる中、ほど、お願い申し上げます。



東京の地域医療を支える 病院を応援します。